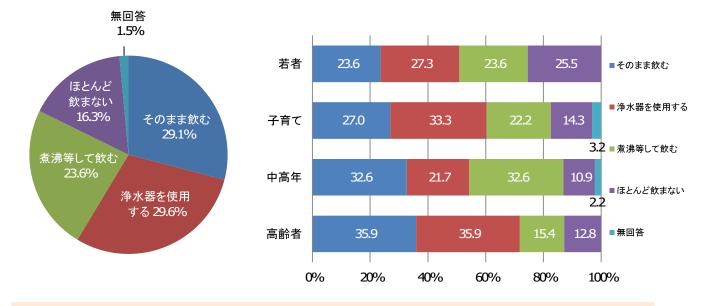
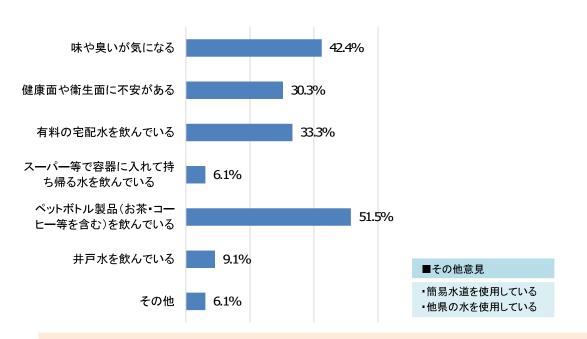
<上下水道に関する取り組みについて>

■問1 水道水をどのように飲んでいるか (N=203)



- 水道水をどのように飲んでいるかについては、「浄水器を使用する」が最も多く、次いで「そのまま飲む」も約3割となっています。
- 世代別にみると、若者・子育て・高齢者では「浄水器を使用する」が、中高年では「そのまま飲む」と「煮沸等して飲む」が最も多い回答となっています(高齢者では「そのまま飲む」も同率)。

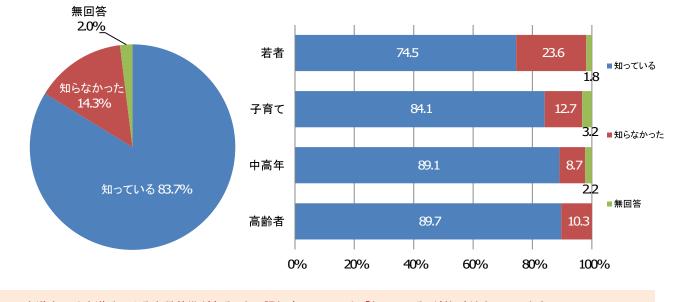


■問2 水道水を飲まない理由 (N=33 複数回答) (問1で「4 水道水はほとんど飲まない」と回答した方)

■ 水道水を飲まない理由については、「ペットボトル製品(お茶・コーヒー等を含む)を飲んでいる」が約5割と最も多い回答となっています。

■問3 水道水には水道法による水質基準※があることの認知度 (N=203)

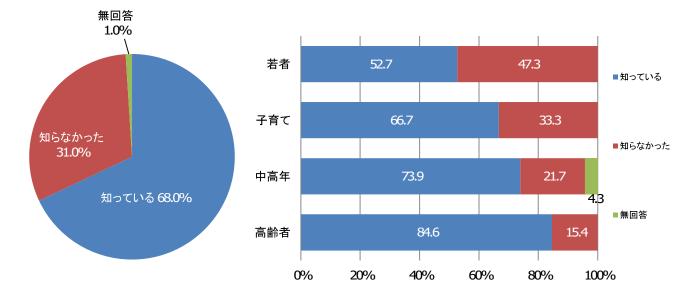
※ 水道水には、人の健康への影響や生活利用上支障がないよう設定された51項目に及ぶ検査が義務 付けられています。



水道水には水道法による水質基準があることの認知度については、「知っている」が約8割となっています。

■ 世代別にみると、世代が高くなるにつれて「知っている」の回答割合が高くなっています。

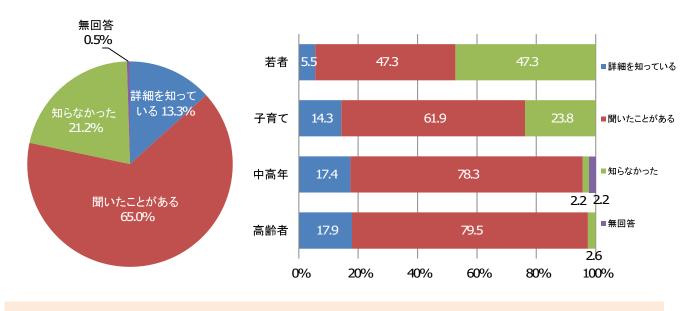
■問4 水道事業や下水道事業が税金ではなく、利用者からの料金収入等で運営 されていることの認知度 (N=203)



水道事業や下水道事業が税金ではなく、利用者からの料金収入等で運営されていることの認知度については、「知っている」が約7割となっています。

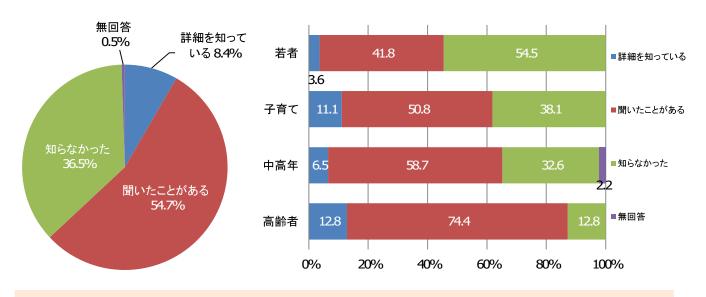
世代別にみると、世代が高くなるにつれて「知っている」の回答割合が高くなっています。

■問5 近い将来、地中の水道管や下水道管が一気に老朽化を迎えることの認知度 (N=203)



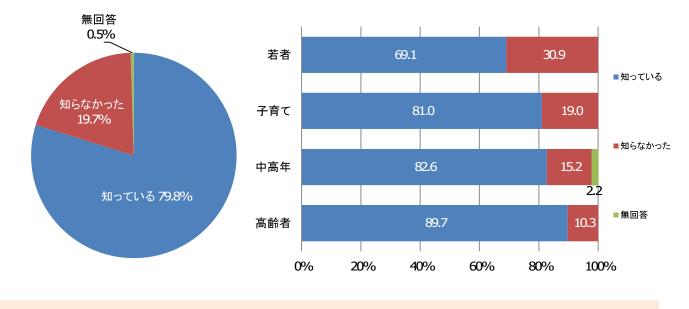
- 近い将来、地中の水道管や下水道管が一気に老朽化を迎えることの認知度については、『知っている』(「詳細を知っている」 と「聞いたことがある」の合計)が約8割となっています。
- 世代別にみると、世代が高くなるにつれて『知っている』の回答割合が高くなっており、中高年と高齢者は9割以上が『知っている』と回答しています。

■問6 今後、水道料金の値上げが必要との試算があることの認知度 (N=203)



- 今後、水道料金の値上げが必要との試算があることの認知度については、『知っている』(「詳細を知っている」と「聞いたことがある」の合計)が約6割となっています。
- 世代別にみると、世代が高くなるにつれて『知っている』の回答割合が高くなっています。

■問7 災害時に必要な飲料水の備蓄量※の認知度 (N=203)

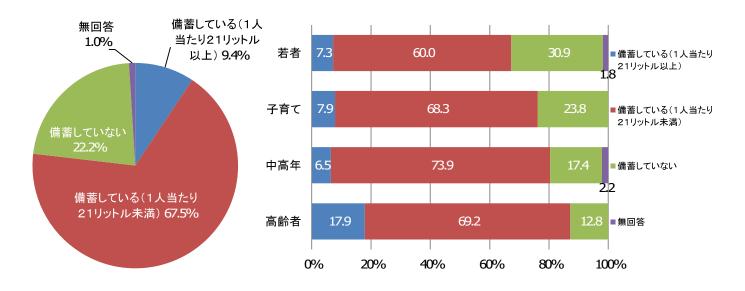


※ 1人1日あたり3リットル×7日分=21リットル(2リットルペットボトルおよそ10本分)

災害時に必要な飲料水の備蓄量の認知度については、「知っている」が約8割となっています。

■ 世代別にみると、世代が高くなるにつれて「知っている」の回答割合が高くなっています。

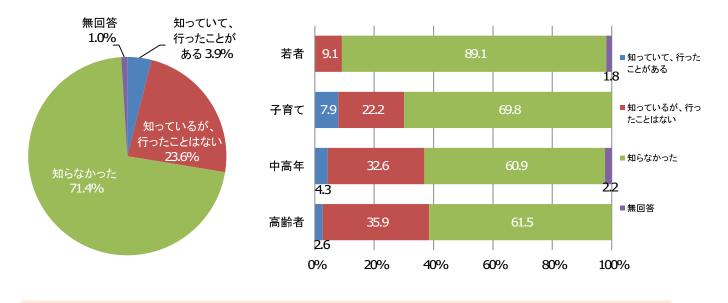
■問8 災害用として飲料水を備蓄しているか (N=203)



災害用として飲料水を備蓄しているかについては、『備蓄している』(「備蓄している(1人当たり21リットル以上)」と「備蓄している(1人当たり21リットル未満)」の合計)が約8割となっています。

■ 世代別にみると、世代が高くなるにつれて『備蓄している』の回答割合が高くなっています。

■問9「上下水道フェスタ」の認知度 (N=203)



- 上下水道フェスタの認知度については、『知っている』(「知っていて、行ったことがある」と「知っているが、行ったことはない」の合計)が約3割となっています。
- 世代別にみると、世代が高くなるにつれて『知っている』の回答割合が高くなっています。

■問10 上下水道に関する情報の入手手段として利用したい媒体 (N=203 複数回答)

